宮城大学 後援会報 Vol.60

発行日
令和5年2月28日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編　集
宮城大学後援会事務局

主催事業
桑山紀彦氏 公演会

地球のステージ ～生きる強さと心のたくましさ～

世界の子供たちからのメッセージ

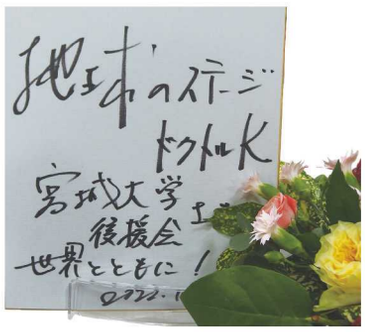
後援会理事　遠藤　美千代

今回は、医師でありNPO法人地球のステージ代表理事の桑山氏をお招きし、明日につながる何かを想像することができるライブステージが開催されました。私自身は、以前にも地球のステージを聞いたことがあったので、久しぶりの公演会をとても楽しみにしておりました。

桑山氏は、世界各地での紛争や災害の現場にボランティアとして活動し、医療救助活動をするとともに、出会った子供たちの明るくたくましい姿を紹介してくださいました。

アフガニスタンの子供たちの交流において、子供に向き合い、現実に向き合うご自身の姿を映像と歌とともに語りかけてくれました。

「子供たちは、生きるために、たった一つ、自分の得意なものや好きなものの技術を磨いていることがある。でも、それは、本物の強さではない。それを、自分のためではなく、誰かのために使うこと。それが本物の強さだ。」と言うことを教えられた話でした。貧困や紛争の要因のリアルさ、そこで生きる人々のたくましさなどの話を聞き、子供たちの笑顔やたくましさに感動しました。



そして、医療活動や音楽を通して様々な人々や文化と関わった経験談は、とても引き込まれるものがあり、その一方で、その話を聞き「では、自分はどうなのか」、「自分はいったい何ができるのか」と、自問自答しました。

それから東ティモールの村では、電気がない、インターネットが整っていなくても、大切なことは、「ちゃんと食べられること」であり、人としての思いやりや、やさしさがある人が世界で一番強い人であるという話でした。「私たちの生活は、なんでも揃っていて、便利であるが、縛られている。」実は、不自由の中で生きているかもしれないと聞き、共感しました。

生きていく中で一番大事なことは、誰かと比べるのではなく、昨日の自分と比べること。どんな仕事に就きたいかではなく、どんな人間になりたいか、それをしっかり考えることが大事だというメッセージは、とても心に響きました。

公演は、映像がとても綺麗で、語りとギターとバイオリンを交えた演奏は、世界が身近に感じられ、心が安らぐ時間でした。私たちは、豊すぎる世の中で多くのものをなくしてしまっていたことを感じました。どの場面を切り取っても子供たちの目が輝いていると思うとそういうことも忘れてはいけない、と思いました。

今回の公演を聞き、自分には何ができるのか、自分の生き方を考えるきっかけとなり、生き方や学び直しへの気づきになった「地球のステージ」は、参加者皆さんそれぞれの心にしっかりと何かを刻んだと思います。

〈参加者からのコメント〉

- 美しい映像と音楽と語りに込められたメッセージに共感しました。
- コロナ禍で日常の生活を送るだけで精一杯の私は、束の間の世界旅行気分を味わうことが出来ました。
- 20年位前にも地球のステージを聴きました。変わらない声と演奏で、生きる活力が湧いてきました。
- 生きる人々の貧困や紛争に翻弄されながらも逞しく生きていく姿に強い生命力を感じました。

記事一覧

2面●コンポケーションデイ「秋」／キャリア開発支援の報告
3面●学びの場　スキルス・ラボ
4面●大学祭実行委員からの報告　大和キャンパス
5面●大学祭実行委員からの報告　太白キャンパス
6面●学生の課外活動のご紹介〈クロレ／ぺんたぶ！〉
7面●コラム／絆
8面●教員からの一言／後援会からのお知らせ／大学からのお知らせ／お問い合わせ先

新入生交流事業「コンボケーションデイ」秋
～「食」の視点で「SDGs」を考える～

春のコンボケーションデイに引き続き、10月29日土曜日に太白キャンパスで秋のコンボケーションデイが開催されました。

コンボケーションデイは、2つのキャンパス、異なる3学群に所属する新入生が交流する企画です。所属学群の枠を超えて活動することで宮城大学生としての一体感を高めることを目的としています。

春のコンボケーションデイでは、SDGs(※)の各目標の内容や、各目標が相互に関連することの理解を深めましたが、続く秋のコンボケーションデイでは、SDGsの中でも「食」に関する内容にフォーカスし、“SDGsの各目標を達成するための具体的な取り組みや課題”をテーマとしたグループワークを実施しました。

学生たちは３学群混成のグループに分かれ、グループごとに指定されるSDGs17の目標のうち1つについてスライドを作成し、8分間のプレゼンを用意する事前課題に取り組みました。事前課題では、コロナ禍でオンラインでの活動にも関わらず、グループのメンバーとコミュニケーションを取り協力しながら取り組むことができました。

10月29日のコンボケーションデイ当日は、太白キャンパスに集合し、グループごとに事前課題で準備した資料を用いてプレゼンテーションを行いました。各グループは、「自分ならどのような工夫をするか」「今後どのように取り組んでいきたいか」という視点で発表し、なかにはすでに自分の生活の中に変化が生まれているという声もありました。発表や質疑応答を通して、春のコンボケーションデイで学んだSDGsの各目標についてより身近に考えられるようになったのではないかと思います。

秋のコンボケーションデイの企画・運営を統括した森本素子スチューデントサービスセンター副センター長は「コロナ禍によって学生の活動は様々な制限を受け、困難な中にありますが、どのグループも質の高いプレゼンテーションを見せてくれました。リモートワークでこれだけのものを作ることができるのもこの時代を生きる若者ならでは。今後も様々な障壁があってもそれを乗り越える工夫をして、さらに成長してほしいです。」とコメントを寄せました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが制限されてきたことで、人との交流を目的とした活動の価値が高まっています。次年度以降も学生間の交流を大切にしつつ、安全かつ効果的な形でプログラムを展開したいと考えています。

太白事務室教務・学生支援グループ

※SDGs
…Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標

＝ご報告＝
キャリア開発事業支援

12月7日(水)にキャリア教育の一環として事業構想学群・食産業学群の全学生を対象とした合同業界研究セミナーを午前は対面、午後はライブオンラインの初のハイブリット形式で実施しました。このセミナーは、企業・団体の人事担当者や本学ＯＢ・ＯＧの皆様から、業界や企業の説明を受け、学生の職業観や勤労観を涵養し、個々人の個性や適性に応じた職業を学生が自ら選択できる能力を育成することや学修意欲を高める目的で、幅広い業界研究の機会として実施しています。宮城県内をはじめ東京・関東圏からも各業界を代表する85の企業・団体が参加し、学生は対面で延べ５４３名、ライブオンラインで延べ５９６名、計延べ１，１３９名が参加しました。学生が自らの疑問を質問し、業界への理解を深める姿も見られました。学生からは「気になっていた業界の他、知らなかった業界のことも知ることができ、貴重な機会だった。」といった声もありました。

この他にも、後援会のご支援を受けた、国家試験対策(看護学群生)、エントリーシート添削(事業構想学群生)、自己分析・適職発見プログラム(食産業学群生)も実施しております。皆様方の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

企画・入試課
企画・広報グループ

学びの場
スキルス・ラボ

リアルな看護実践を学修する
スキルス・ラボ

スキルス・ラボは、現代の急速な医療・看護の高度化・複雑化・多様化に伴い、臨床看護の判断力・実践力の強化をはかるために、大学施設を改修・整備して、2022年10月に開設しました。

看護学は、人を多面的に理解する知識と、エビデンスに基づいた看護技術を用いて、健康を支える実践的な学問です。スキルス・ラボでは、リアルな臨床環境で、実践的な能力を養うために、高機能シミュレーターを活用してのフィジカルアセスメント・トレーニング、シナリオ・トレーニングなどの学修ができます。

フィジカルアセスメント・トレーニングとは、単に体温を測る、血圧を測るにとどまらず、生命の徴候や、生活に必要な身体の機能の状態を判断するトレーニングです。看護師は、見て、聴いて、触れて、さらに、聴診器、医療モニターを活用して、情報を収集します。そして、身体がどのような状態にあり、何が苦痛であるかを把握し、生命維持のための援助や、生活するためにどのような支障があるかを検討します。身体、つまりフィジカルについて、十分に把握し、判断できるようになることが、生命と生活を守る看護師に不可欠な能力です。

シナリオ・トレーニングとは、実際の入院患者と同様の電子カルテと、患者の病気や治療を踏まえた、体温、血圧、脈拍などを再現できるシミュレーター人形を用いて、適確に情報を得て、得た情報をもとに判断し、看護を計画・実施するトレーニングです。再現できる看護場面のシナリオには、大腸手術を受けた患者の手術前の看護や手術直後の看護、閉塞性肺疾患患者の呼吸困難に対する看護など、様々な患者の状態と場面があります。また、シミュレーション学修をより効果的にする振り返りや、知識の確認ができる演習の撮影設備も備えています。座学の講義で得た知識や、演習で身につけた技術を用いて、繰り返しのトレーニングを行い、臨地実習に臨むことで、実践での学びがより充実します。

今年度、文部科学省公募の医療人材養成事業に採択され、病院だけでなく、施設や在宅など地域の様々な場で行われる看護の実践を学修する教材開発として、コンピューター上に仮想地域である「MYU-TOWN」を作り、活用を始めています。スキルス・ラボの大型モニターでMYU-TOWN内にある患者の住む地域や自宅を投影し、画面の中で室内等を移動しながら、自宅の環境に合わせた看護方法についてグループでディスカッションすることも可能になりました。学内と臨地での学習を補完する学習の場として、スキルス・ラボやMYU-TOWNを活用する看護の学修の充実に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、行動制限が余儀なくされ、実際の看護場面を体験する臨地実習での学修期間が短くなる傾向です。そのような中でも、実践力を高めるシミュレーション学修の充実をはかり、臨地実習と連動させることで、未来に活躍する看護職を育成していきたいと考えています。

宮城大学看護学群
教授　菅原よしえ

宮城大学大学祭　大和キャンパス　2022.10.1(SAT)、2(SUN)

「MYU Fes'22 ～大和ロマン～」

大和キャンパス大学祭実行委員長
事業構想学群事業プランニング学類 2年　菅原 蒼太

私たち宮城大学大和キャンパス大学祭実行委員会は３年ぶりの対面開催を実現しました。

台風や新型コロナウイルス感染症による影響で中止や遠隔での開催が続いた中、対面開催を目標とし活動を開始した私たち。大学内で対面での大学祭を経験した人たちは現役の４年生だけとなり、１・２年生主体で活動している私たちからすると、歴代のパンフレットや資料からわかる程度の想像しかできない現状でした。しかしそれは逆に、新たな歴史をつくる第一歩として、新たな大学祭を作り上げるという気持ちで取り組む要因にもなりました。

新たな歴史をつくった学祭実行委員

活動を開始し大学祭の方針を考える際に、まず決めなければならないことがありました。一般公開の可否です。一般の入場をするか、大学内のみの開催にするか、選択を迫られる中、一般公開はせず大学内のみの開催にしようと決めました。ただでさえノウハウがない状態での始動だったので、負担を減らすための決断でした。しかしそれでも大学祭を実現させるには多くの困難がありました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため対面での集まりが思うようにできず、委員会内への連絡の伝達の遅れや見通しが不十分なことによるトラブルなど本番当日まで多忙な日々でした。私は去年大学祭実行委員会に所属しておらず、私より適任な委員長がいるのではないかと思ったこともありましたが、幹部のみんなや委員のみんな、協賛企業様、大学や後援会からの協力や励ましから何とか大学祭を成功させることができたと思っております。そして大学祭の最後、ステージの上で幹部のみんなと見た花火は一生忘れられない景色となりました。

学祭を作り上げた最強の幹部

大階段アート

新型コロナウイルス感染症の影響でサークル活動や対面活動が減り、他学群や他学年とのつながりが薄くなってしまっている近年、大学祭を通しての出会いやつながり、思い出が今後も残り続いていくこと、今回の大学祭を新たな伝統の始めとして、今後の大学祭をぜひ盛り上げていってくれることを心より願っています。次は一般公開をはじめとする規模拡大、かつての大学祭の全盛期を超えられるように頑張っていきますので、MyuFes2023をぜひ宜しくお願い致します。

みんなで見た最高の花火

宮城大学大学祭　太白キャンパス　2022.11.5(SAT)

「ゼロ祭ーみんなでゼロから作る大学祭ー」

太白キャンパス大学祭実行委員会副委員長
食産業学群フードマネジメント学類3年　熊谷 智佳

こんにちは！太白キャンパス大学祭実行委員会です！令和４年度太白キャンパスの大学祭は、「ゼロ祭」というタイトルを掲げ、２年ぶりに開催を果たしました。コロナ禍での社会のグレートリセットを踏まえ、またゼロから大学祭を作っていくという意味が込められています。

当日はフカバーガーや豚串、クラフトコーラ、ワッフル、ポップコーンやから揚げやたこ焼き、あめすくいや射的、ビデオゲームなどさまざまなサークルや研究室、実行委員会、有志団体から出店がありました。

縁日のように外に２０店舗ほど屋台が並び、食産業学群らしい、「にぎやかでおいしい大学祭」になりました。

完売しました

イベントでは仮装コンテスト、歌うま選手権を開催し、校内で１番の歌うまさんが選出されました。またダンスサークルをはじめ、アカペラサークル、ジャズ＆ロックサークルのパフォーマンスが会場を盛り上げました。さらにスペシャルゲストとして「エイトブリッジ」様、「駆け抜けて軽トラ」様をお招きして、お笑いライブを開催して会場が笑顔に包まれました。

signage Art

実行委員会は当日に向けてたくさんの会議や熟考を重ね、コロナ禍でも最大限盛り上げるためにたくさん準備をしてきました。その裏には多くの苦労がありました。授業やゼミ、就活やアルバイトをする中で、１～３年生はコロナ禍で大学祭を体験したことがなく、全体像を把握できない不安を感じることが多くありました。

ステージも盛り上がりました

しかし、前例のない大学祭はむしろ私たちが新たな歴史を作り出すことができるチャンスであると捉え、前向きに取り組みました。

その結果、企画したイベントも大好評となり、模擬店でも販売予想数を大幅に上回るなど、予想を超える大成功でした。

協賛してくださった会社や後援会の助成で豪華なゲストをお招きすることができ、充実した大学祭を開催することができました。私たちのアイデアが実現できたのも先生や事務の方々がアドバイスしてくださり、背中を押してくださったからであると考えています。大学祭に関わってくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。令和４年度は学内開催という形でしたが、来年度はコロナが落ち着いて、父母の皆様や一般の方々にも参加していただき、大学の雰囲気や太白キャンパスの良さをお伝えできることを切に願い、楽しみにしたいと思います。

楽しかったヨ　ショク産

植物を育てて大学に彩りを添える「クロレ」

クロレ 代表
食産業学群１年　大澤 めぐみ

はじめての寄せ植え

この団体は、以前あった「ガーデンキャンパス」という団体の事業を引き継いで活動しています。

この団体の名前である「クロレ」の由来は、フランス語で「彩る」という意味の単語です。このことから、宮城大学を彩り気持ちよく大学生活を送る手助けをしたいという「クロレ」の活動に携わる28人の気持ちを込めてこの名前を付けました。

クロレが2022年度に行った活動は、３つあります。

１つ目は、10月頃に大学の入り口付近に季節の花を植えたプランターを設置したことです。プランターに花を植えた人が責任をもってその植物のお世話をしています。この時は冬だったので水が凍らないように、午前中に水やりを行うこと、その時にプランターの下から水が出てくるまでたっぷりと水をあげることなどに気を付けながらお世話をしていました。

12月には菊地先生のご協力のもと、大学構内に飾るクリスマスリース作成を行いました。円形に丸めてある植物のつるに、松の木の枝を緑の針金で止めてそこに松ぼっくりや色のついた綿などをグルーガンで付けました。このとき、リボンは一から自分で作成しないといけなかったため、皆苦戦していましたがリースに巻き付けるなどの工夫をしている人もいました。完成した後にみんなの作品を見てみると、使っている材料は同じなのですが、皆デザインが異なっていて、驚いたと同時におもしろいと感じました。また、大学前にあるもみの木に飾り付けやこの団体の顧問である森本先生の飾りを大学のコモンズに飾り付けて大学構内を華やかにしました。

このあとの活動は、新学期に入ってから大学前にある花壇のつつじの植え替えとその整備。また、春と秋にプランターの花を植え替えるという活動を予定しています。これ以外にも随時メンバーがやりたいと思うことを募集して、「クロレ」の活動を活発化することで、より大学の美化に取り組んでいきたいと思います。

学内に飾られたクリスマスリース

コロナ禍での新たなサークルの形

MYU漫研「ぺんたぶ！」　代表
事業構想学群 価値創造デザイン学類2年　大野 裕生

私たちMYU漫研「ぺんたぶ！」(旧:宮城大学漫画研究サークル「ぺんたぶ！」)は、2019年度までは、イラストの展示・頒布等対面での活動を行なっていた。しかし、新型コロナウイルスの流行に伴い、対面でのサークル活動が制限されたため、2020年度からはオンライン主体に切り替えて活動している。

オンラインでの主な活動は、2020年7月4日から週1回間隔で開催している「ぺんたぶ絵チャ会」である。「絵チャ」とは、従来のチャットツールにペイントツールの機能を付加されている「お絵描きチャット」というサービスの略称である。このサービスを利用することで、チャットの参加者同士が気軽に絵を合作することが可能である。

ぺんたぶ絵チャ会では、お絵描きチャットサービス「MagicalDraw」とボイスチャットサービス「Discord」を併用し、オンライン上の一枚のキャンパス上に、サークルメンバーが音声通話をしながら各々絵を描くという形でサークル活動を行っている。完成したイラストは、「絵チャ会」終了後にぺんたぶ！公式Twitterに投稿している。また、2022年度は行動制限などの規制が緩和されたこともあり、新型コロナウイルス流行前以来となるオフラインでの活動にも取り組んだ。7月31日に開催された寺岡サマーフェスティバルでは、似顔絵の販売を行い、想定以上の売り上げを得ることができた。また、10月1日、2日に開催された大学祭では、「MYUぺんたぶ絵画展」と称し、サークルメンバーが制作したイラストの展示を行った。

「ぺんたぶ絵チャ会」で書き上げた1枚

「大学祭　MYUぺんたぶ絵画展」会場のホワイトボード

2022年度の活動は、絵チャ会のみしか行えなかった昨年度よりも格段に活発なものになったと考えられる。その一方で、コロナ禍以前からのフィードバックが少なかったこともあり、対面での活動を企画している中でサークルメンバーに混乱を与えてしまったことが、サークル代表として個人的に反省すべき点であると考える。来年度は2022年度の活動で得た反省点を改善し、より精力的な活動をしていきたいと思う。

column

ゆう先生の分岐点㊦

研究の道に進む決断

事業構想学群准教授　鈴木　優

大学4年生の私は内々定と同時に就職活動(以下、就活)を終えた。このとき、その6年後に大学教員になっているとは考えもしなかった。学生からよく聞かれる「ゆう先生はなぜ大学の先生になったのですか？」という質問にはいつもこのエピソードを話している。

2005年5月、就活中の私は志望する某企業からシステムエンジニア(以下、SE)としての内々定の連絡をもらい、就職先が決まった喜びに浸っていた。しかし、その気持ちは数日で消え去り、その企業でその仕事を40年近くも続けることに対する不安の方が次第に大きくなっていった。今になって思い返せば、当時の私は就活をする同学年の友人たちや大学のキャリア教育などの周囲の環境に完全に流されて自分を見失っていた。内々定をもらい立ち止まったことで、ようやく自分の気持ちに気付くことができた。本当にやりたいことはSEではないと。

就活が本格化する大学3年生の秋学期から、私はデータベースを専門とする准教授の下で卒業研究に励み、出席管理システムを開発していた。私にとってシステム開発はとても面白く、SEを志した理由もここにあった。その一方で、それと同時期に着任したヒューマンコンピュータインタラクション(以下、HCI)を専門とする講師との出会いをきっかけにHCIに関心を抱き、その分野の面白さを直感的に理解した。その講師からさまざまな話を聞く中でその学問に何よりも強い興味を持ち、より深く勉強してみたいと思った。

内々定の1週間後には辞退の連絡を行い、HCIの勉強をするために大学院進学の準備に取りかかった。HCIは非常に広い領域であり、私の興味のある分野を学ぶために別の大学の大学院に進学した。大学院で博士号を取得するまでの計5年間にもさまざまな恩師との出会いがあり、現在の私が存在している。

就活での自己分析では見えてこない、本当の自分と向き合うことを忘れないように。学生からの先の質問には上述のエピソードにこの言葉を添えて答え、学生が悔いのないキャリアを選択することを願っている。

瀬戸内海の島を巡る鈴木先生

鈴木（すずき）　優（ゆう）

1984年生まれ。岡山県出身。2011年筑波大学大学院システム情報工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。京都産業大学コンピュータ理工学部を経て、2013年より宮城大学に助教として着任。2018年より現職。動物と岡山をこよなく愛する。

絆 No.29

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。

今春卒業する事業構想学群価値創造デザイン学類4年の佐藤葵さんです。宮城大学管弦楽団でクラリネット奏者として活躍。令和4年12月に開催された第九コンサートへの思いと4年間の思い出をお寄せいただきました。

三年ぶりの第九　感謝の思い溢れる4年間

事業構想学群 価値創造デザイン学類4年　佐藤　葵

2022年12月11日、3年ぶりに「宮城大学研究フォーラム&第九コンサート」が開催された。振り返れば、多くの方々の熱い思い、強力なサポートがなければ実現できなかったことであると、大学生活最後のステージを終えた今強く実感している。

コロナ禍に入り、私達管弦楽団は他のサークル・団体と同様、様々な制限下で思うように活動ができない期間が続いていた。練習もままならない状況であったが、SNSでの団員との交流や新規団員の勧誘、時間帯をずらしての少人数での練習など、工夫をしながらその時できる活動に精一杯取り組んだ。また、第九コンサートは2年連続中止となったが、例年と同じく合唱団の方々との合同演奏会にいくつか出演させて頂き、コロナ禍ではあったが目標を持ちながら活動を続けることができたと考えている。

そして今年度に入り、いよいよ3年ぶりの第九に向けて本格的な練習が始まったものの、私は今一つ心が晴れない気持ちでいた。なぜなら、昨年も同様の動きがあったにも関わらず開催が叶わなかった為である。今年ももしかしたら難しいのではと、心のどこかで覚悟をしていた。しかし、この頃には大幅に規制が緩和されたこともあり、日々の練習に活気が戻り、そんな暗い気持ちを吹き飛ばす程に毎回の練習が楽しくて仕方がなかった。もはや中止を恐れている暇はないと、一同一丸となって練習に取り組み、無事3年ぶりの第九を開催することができた。間隔を空けての舞台セッティングやマスクを着用しての合唱など、3年前とは大きく形式を変えての公演となったが、再び開催できた喜びで私達は胸が一杯になった。

このような状況下にも関わらず、私達管弦楽団は多くの方々に支えられて沢山のステージに立つことができ、今年は念願の第九も叶えることができた。顧問の渡部勝彦先生、杜の都混声合唱団の皆様、コンサート運営に携わって下さった関係者の皆様、そして共に練習に励んできた団員のみんなへ、感謝の思いで一杯である。

宮城大学後援会報 vol.60 | 令和5年2月28日発行 | 編集・発行 宮城大学後援会事務局

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学 事務局 企画・入試課内
TEL：022(377)8381
FAX：022(377)8282
E-mail：myu_kouenkai@myu.ac.jp
URL：https://www.myu.ac.jp/campus/support/

教員からの一言

異なる文化や習慣と新型コロナ

事業構想学群准教授　石内 鉄平

2005-2006年、日本学術振興会二国間交流事業に採択された「日本とオーストリアの戸外活動の比較」は、戸外活動を対象とした世界初の国際比較研究であり私の教育・研究活動を形作るものでした。日本側は国立環境研究所を中心に、北海道大学や琉球大学を含む計13大学が参画。私もその恩恵を受けて日本とウィーンで公園利用の実態調査を行うことができました。戸外活動は特に環境条件の影響を受けやすいのですが、それまで人々の戸外活動を定量的に比較することはありませんでした。戸外の環境との接触は、環境からの影響を直接受ける重要な行動であり、測定する手法を定めて比較することができれば地域に根ざした環境計画を提案することができるかもしれない！こんな思いから始めた研究活動でした。

2008年ベトナム・ホーチミン市で開催された国際会議の合間に訪れたTao Dan Parkは、ベンチや東屋、多くの遊具や花壇が整備され、高い樹木が生い茂る近代的できれいな公園でした。くつろぎながら、おしゃべりを楽しむ多くのベンナムの方々に活用されている一方、唯一ジョギングをしているのは白人の方々のみ。平坦で走りやすい園路、木々に囲まれた涼しい空間を有する公園でも健康志向の差でしょうか、文化や習慣によって異なる活動内容を目の当たりにした瞬間でした。

宮城大学に赴任して約5年、講義では都市計画や地域分析学などを担当しています。わが国の歴史、震災や戦災からの復興、過疎化やコンパクトシティなど超高齢社会における課題をテーマにしています。また、地域の概念や地域を分析するためのGIS(*1)や衛星画像、GNSS(*2)などの原理に加え、それらを活用した演習も行っています。

コロナ禍への対応に追われて気づくと3年近く経過してしまいました。新型コロナにより、世界中がその猛威に直面することとなり、伝統や文化、習慣も甚大な影響を受けました。そして、WEB会議やオンライン講義が定着し、テレワークも普及。これから社会での活躍が期待される学生の皆さんは、伝統や文化といった「どこかの物真似ではない地域特性」に配慮しながら、新たな生活様式やライフスタイルに順応するために多くの場面でとても難しい判断が求められると思います。このような状況の中で、適切に状況を見極めて判断することができる人材の育成に、より一層取り組んでいきたいと思っています。

(*1) GIS･･･地理情報システム
(*2) GNSS･･･全球測位衛星システム

後援会からのお知らせ

令和5年度　総会のご案内

令和5年度後援会総会を開催いたします。議題は、令和4年度事業報告・決算、令和5年度事業計画・予算案などです。会員の皆さまはご出席くださいますようご案内いたします。（※詳しくは総会案内文をご覧ください。）

役員の募集

後援会では学生・大学・会員のために後援会運営に携わってくださる方を募集しています。現1年生～3年生の父母・保証人の方で、ご興味のある方は後援会事務局までご連絡ください。

後援会事務局　☎ 022 (377) 8381　myu_kouenkai@myu.ac.jp

終身会員制度のご案内

後援会では父母・保証人の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。卒業生の父母・保証人の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付いたします。

後援会では学生と大学に対して更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

令和4年度ご卒業を予定されている学生の父母･保証人の皆さまには、改めてご案内いたしますが、何卒、制度の趣旨をご理解いただき、多くの方にご賛同いただきますようお願いいたします。

令和5年度　主催事業

会員様を対象とする主催事業「MYUサポーターズデイ」「講演会」を令和5年度も開催予定です。日時などが決まりましたらご案内いたします

大学からのお知らせ

令和４年度　宮城大学卒業証書・学位記授与式

令和4年度宮城大学卒業証書・学位記授与式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、式典を午前・午後の２回に分け、卒業生・修了生及び教職員のみで行います。

当日の式典の様子は、午前・午後2回ともインターネットで配信するほか、スマートフォンを用いたAR記念撮影コンテンツも用意する予定です。

詳細は、卒業生・修了生宛てに学内メールにてお知らせいたします。

なお、今後の状況によっては、式典の実施方法等を変更する場合があります。

開催日程
- 日時：令和５年３月20日（月）
- 場所：宮城大学大和キャンパス講堂

午前/午後	対象
＜午前の部＞	事業構想学群及び事業構想学研究科
＜午後の部＞	看護学群・食産業学群（部）、及び看護学研究科・食産業学研究科

お問い合わせ先	大和キャンパス（看護・事業構想）	太白キャンパス（食産業）
教務関係［カリキュラム･シラバス等］	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室［就職関係］	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、ご子女の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

編集後記

11月、学生と意見交換会をキャンパス毎に実施しました。少人数での意見交換会でしたが、学生達の考えを知ることができた良い機会となりました。そして、大人が心配していることと学生が不便に思っていることは違うんだなぁ～と、大人たちは感じた日でもありました。